

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1690200199		
法人名	株式会社ニチイ学館		
事業所名	ニチイケアセンター高岡		
所在地	富山県高岡市中川栄町5番13号		
自己評価作成日	平成30年1月9日	評価結果市町村受理日	平成30年3月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 富山県介護福祉士会		
所在地	939-8084 富山県富山市西中野町1-1-18 オフィス西中野ビル1階		
訪問調査日	平成30年1月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・人材育成や家族支援を担うため、「ニチイの認知症ケア」研修を内外に向けて実施している。</li> <li>・毎月第3木曜日に見学会(ほほえみカフェ)、誕生月には入居者の誕生会を開いている。</li> <li>・季節ごとに外出の機会を設けたり、慰問ボランティアの方に来ていただいたりし、入居者や地域の方々に楽しんでいただけるように取り組んでいる。</li> </ul>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は、近隣に飲食店や美容院、ドラッグストアが立ち並ぶ通りに立地しているが、室内は静かで明るく、快適な温度が保たれていて、居心地の良い空間となっている。職員は明るく笑顔で利用者に接し、利用者の要望に沿うように傾聴に心がけ、安心できるように声かけをしている。また、職員同士の連携も取れており、あたたかい雰囲気にも包まれ、事業所の理念「あたたかいほほえみで明るい毎日、やさしいほほえみでやすらぎの毎日」の実践に繋がっている。外出支援にも力を入れ、年間計画を立てて、春には花見ドライブ、夏は七夕見学、秋は紅葉ドライブなど季節を感じることができるような外出をしたり、その他にも市内の神社へ散歩に出かけたり、デパートでお茶を飲んで来たりするなどまた、クリスマス会にはボランティアの慰問があり、家族や地域の人々と一緒に楽しんだり協力しながら出かけることができるように職員が一丸となって取り組んでいる。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「あたたかいほほえみで明るい毎日。やさしいほほえみでやすらぎの毎日」を職員全員で考え基本理念とした。社是の誠意・誇り・情熱や施設の基本理念を頭に置き、業務に取り組んでいる。	職員は勿論、利用者や家族の目にも付きやすい玄関の壁に理念を貼り出し、毎朝のミーティングで「あたたかいほほえみで明るい毎日。やさしいほほえみでやすらぎの毎日」という理念を職員全員で声に出して読み意識付けるように努力している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の店を利用したり、月に1度床屋さんに訪問していただいている。地区民生委員さんが地域で行われる行事に声をかけて下さっている。	日頃から隣にあるドラッグストアへ買い物に出かけたり、民生委員からは地域の行事への誘いがあり、去年は「地蔵まつり」へ希望する利用者が参加して地域の方々との交流を図った。また、事業所のホームページの「介護サイト」に参加した時の様子を載せていつでも閲覧できるようにしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の中で認知症について取り上げ、理解を深めてもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	偶数月に定期開催し、入退去者、待機者の報告や行事の案内をしている。	隔月毎に地区民生委員、地域包括支援センターの職員、利用者、家族代表等を交えて活動報告、活動に対する評価、意見交換を行い、転倒事故予防に床にマットを敷いてはどうか等の助言もあり、日頃のサービス向上に活かしている。	運営推進会議では、事業所の活動報告や意見交換を行うので家族の意見や要望も聞き取る良い機会となるため、家族の方の参加を増やし事業所との連携を深められることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	2ヶ月毎の運営推進会議で活動状況を伝えている。困難なことがあった時は市役所に相談に行ったりしている。	行政担当者に「介護相談員」派遣の相談をしたり、運営推進会議の報告をするなど日頃から連携を取っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	虐待や認知症、高齢者について正しい理解度を高め、介護の技術や研修などで身体拘束のないケアに取り組んでいる。	年間の研修計画の中に「身体拘束廃止」についての勉強会を組み入れ、「身体拘束廃止マニュアル」も基にしながら学び合い、途中採用の職員にも入社時にマニュアルを配布して勉強会を開催する等、職員全員で身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	当社の高齢者虐待防止スローガン「虐待はしない」「虐待をしない・させない・見逃さない」に則り、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内外部の研修に参加し、業務ミーティング時に他のスタッフへ落とし込みをしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に説明を行っている。看取りや状態が変化した時の事など、契約後でも疑問点については説明を行い、ご家族に理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年1回法人本部が実施する家族アンケート「顧客満足度調査」を実施している。その結果を全職員に周知すると共に業務ミーティング等で対応について検討し、ご家族にも報告している。	法人本部が家族に対して実施する「顧客満足度調査」の結果を踏まえて、その結果を全職員で共有し、ミーティングで改善方法を話し合い、「ご利用者さまからの声」という報告書を家族に送付して運営に反映させる努力をしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務ミーティングや朝礼、夕礼時等で職員から意見を聞き、全員で実践できるよう、努力している。	毎朝のミーティングで話し合いの時間を持ち、また連絡ノートを使用するなどして、職員間の情報共有を行っている。また、そこで出された意見や要望は、管理者を通して支店長に報告するなど事業所全体で意見を聞く体制作りができています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の勤務条件を把握し、極力希望に沿うよう配慮している。キャリアアップ試験による賃金アップ制度がある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員全体が統一したケアを提供できるよう、業務内容を見直し、また研修の機会も設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	月1回法人内のGHと交流する機会があり、情報交換を行っている。また職員も研修に行った際に他GHと交流の機会を持っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の話を傾聴し、安心感を持ってもらえるよう信頼関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時の面談や見学のときに本人、家族の話を傾聴、要望等を伺い、安心してもらえるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の話を傾聴し、他のサービスを導入することで生活を継続できないか、できる範囲で説明、案内している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者には職員見守りのもと、できることをしていただいている。食器、おぼん拭き、衣類たたみ等の手伝いもしていただいている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話や毎月のお手紙で近況報告したり、家族の面会時には、本人の居室でゆっくりとした時間を一緒に過ごしていただく等配慮している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族に外出や外泊の協力をしていただいている。 本人と過ごす時間が持てるよう、行事の案内等をしている。	家族の協力を得て、正月に自宅で外泊したり、孫の結婚式に出席したり、ドライブに出かけたりするなど馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援を続けている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の意見を尊重し、話を傾聴するよう努めている。入居者間の相性を考慮し、席を替えたりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了時には、いつでも相談にのる旨をお伝えしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意思や家族からの情報提供などによって本人の希望が取り入れられるように工夫している。	日頃から利用者の側に寄り添い、本人の希望や意向について傾聴するようにしているが、さらに本人を知るという点からセンター方式を活用してアセスメントを取り、一人ひとりの要望の把握に努めている。	本人の思いや意向の他にも家族の思いなども把握されることに期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族からそれまでの生活歴を情報収集している。担当ケアマネージャーからも情報を収集している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録や朝・夕の申し送りより現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	センター方式を活用し、本人、家族の思いや希望を取り入れ日々の生活を把握してモニタリングし、介護計画書を作成している。	本人の状態の変化や意向については、センター方式を用いて把握をし、6か月に一度モニタリングを行い、介護計画の見直しを行って、利用者個々の状態に合わせた介護計画となるように取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録や職員からの情報をもとに介護計画を見直している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々発生するニーズに対して職員で話し合いケアを提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を把握し、安全・安心で過ごしていただくように努力している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に本人のかかりつけ医を確認し、馴染みの病院への受診をすすめている。要望があった時は協力医を紹介している。	入所時に本人及び家族の希望を聞き、主治医を選択してもらっている。原則、受診は家族が付き添っているが、突発的な場合は本人の状態が記載された介護記録のコピーを渡して適切な情報提供が行われるように配慮している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	一昨年12月より週に1度訪問看護に来ていただけるようになった。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院や家族に連絡を取り、現状を確認している。 また、地域連携室の担当者との連絡を取り合い状況確認を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	一昨年12月より週に1度訪問看護に来ていただけるようになり、主治医の指示のもと、医療行為をしてもらえることになった。重度化した場合のあり方について家族、主治医、看護師と連携をとりながら支援に取り組んでいる。	事業所には、「重度化した場合における対応に係る指針」が整備されており、利用者が重度化した場合は家族、主治医、看護師、事業所が話し合いを重ね、本人にとって最も良い方法について連携を取り、チームで支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時はその場にいる職員が対応している。対応が困難な時は管理者に連絡が入るシステムになっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の消防訓練などによって避難の方法などを学んでいる。避難訓練はほぼ全員の職員が参加している。民生委員の方を通して地域と顔馴染みの関係作りに努めている。	運営推進会議で協力を依頼したことにより、積極的に地区民生委員や地域の方の参加が得られ年2回、火災想定避難訓練を実施して、地域との協力体制を築くように努力している。	火災想定以外の自然災害における避難訓練の実施や事業所内部だけではなく、外部の避難場所への安全な誘導方法などについても取り組まれることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	採用時と毎年個人情報についての研修を行い、テストで理解度を確認している。利用者一人ひとりに応じた声掛けと対応をするよう心がけている。プライバシーなどにも配慮している。	利用者、一人ひとりを尊重し、「ちゃんづけ」で名前を呼ばないように職員間で話し合い、プライバシーを損ねない言葉かけをするように配慮している。	年間研修計画の中にプライバシー保護についての研修を組み込んで、職員間でお互いに意識できるように努力されることを期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何かをするときは本人に了解を取ったり、思いを聞き出せるように努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの意思を優先し、本人のペースに合わせて支援するように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者の着たい服を着てもらっている。月に1回近所の床屋さんに来訪していただいている。介助が必要な方には判断や動作の援助をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日のおやつは職員が手作りしている。お弁当やオードブルを注文したり、季節に合った献立にし食事を楽しむ工夫をしている。	季節に応じた行事食を献立委員会が中心になって考案して作ったり、毎日のおやつを職員が手作りしたり、利用者に味見をしてもらうなど食事を楽しむことができるように工夫している。また、洗った食器を利用者に拭いてもらい、一人ひとりの力を活かすよう配慮している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	当社の献立表をもとに、ご入居者の状態に合わせてきざみ食やミキサー食を提供している。介護記録に毎食の飲食量を記入している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床、就寝時、食後には口腔ケアの声掛けをしている。ご入居者の能力に応じたケアをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄状況やリズムを把握し、その人にあったタイミングで声掛けや誘導をしている。	排泄チェック表を記入して、一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレで排泄できるように声かけを行ったり、便秘気味の利用者には、起床時に牛乳を飲んでもらうなど個々の排泄の自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	職員間で排便状況の確認をしている。排便がないときは水分を多めに摂ってもらったり、乳製品を摂取していただいている。下剤服用の方は調整させていただいている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	1日2～3人ずつほぼ平等に入浴できるように配慮している。個々のペースに合わせてコミュニケーションを取りながら入浴介助している。	日曜日以外は、利用者の希望を聞いて曜日を問わず入浴できるようになっている。また、浴槽のお湯は、一人入浴が終わる毎に入れ替え、本人の意思を確認して無理強いないこと、利用者が気持ちよくゆったりと入浴が楽しめるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その時の状況や体調に応じて休息、就寝してもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬の必要性を確認しながら、それぞれに合った方法で服薬介助をしている。2名体制で服薬支援をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人、ご家族から趣味などを聞いている。個々に合った役割や楽しみを把握し、日々の生活の中からできる事を実践している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	少人数ずつ季節に応じた外出を実施している。 (花見、おとぎの森公園、七夕、古城公園、二上山)	年間の行事開催予定表を作成し、毎月タクシーを使用して春は花見に、夏は高岡の七夕まつり、秋はおとぎの森公園へバラまつりや二上山への紅葉ドライブなど季節ごとに外出し、利用者の希望も取り入れながら戸外に出かけられるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣い1万円を上限としてお預かりしている。個人的に持っていたくと紛失やトラブルに発展する恐れがあるため、個人の財布に入れて事務所金庫に保管している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば家族などへ電話していただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁に季節に応じた飾りつけをしている。室内の配慮をすると共に加湿器を設置している。適度な換気を行い、環境に配慮している。	居間の大きな窓ガラスから光が差し込み、室内は非常に明るく掃除も行き届いていて清潔感がある。利用者は外の様子を眺めて楽しむことができたり、共用空間の壁には個々の利用者の手作り作品(干支の折り紙や切り絵など)が飾られ、居心地良く過ごせる空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者の思いに応じて共同空間と居室の行き来をしていただけるように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものをご家族にお願いし持ってきていただき、入居者が安心できるようにしている。	居室は、利用者が日頃から使い慣れた馴染みの家具や人形などを飾り、居心地良く安心して過ごせるように配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	危険な物や転倒につながるような物を認識し、安全に生活できるよう工夫している。		

(別紙4(2))

事業所名 ニチイケアセンター高岡

作成日: 平成 30 年 3 月 1 日

## 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。  
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議に家族の参加がない。	<ul style="list-style-type: none"><li>・家族の意見を聞き、サービス向上に努める。</li><li>・ご家族が運営推進会議を実施していることを知っていただく取り組みをする。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・運営推進会議について知っていただく声掛けを全家族にしていく。</li><li>・記録もご家族に郵送していく。</li></ul>	6ヶ月
2	35	自然災害における避難訓練を行っていない。	<ul style="list-style-type: none"><li>・火災訓練の他に自然災害に対する訓練も行えるように職員が避難場所を把握し、誘導できるようにしていく。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・実際の避難場所までのルートを確認するとともに所要時間の確認をする。</li></ul>	6ヶ月
3	23	センター方式を使ったアセスメントを使用して本人の思いは確認しているが、家族の意向、思いの把握に足りないところがあった。	<ul style="list-style-type: none"><li>・今まで通り本人の意向、思いの把握に加え家族へも意向、思いを確認していく。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・家族来訪時に現在の生活の様子やしていることなどを伝え、入居前の様子を聴いていく。</li></ul>	6ヶ月
4	36	プライバシーに関することを研修等に取り入れていなかった。	<ul style="list-style-type: none"><li>・プライバシーについてのことを研修時に取り入れる。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・研修の中に接遇マナーがあるため、その中に取り入れる。</li><li>・プライバシーに関する研修資料を具体的にし、研修時等にスタッフに周知する。</li></ul>	6ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。